Sound Devices SL-2 (Wisycom MCR54) クィックガイド

※ Firmware アップデートにより仕様が変わる場合がございます。

この資料は右の QR コードからダウンロードできます。 http://www.tech-trust.co.jp/pdf/sd/qop_sl2_mcr54.pdf |



<<仕様上の基本知識>>

電源の入れ方

SL-2 にマウントした受信機は、8-Series ミキサーの電 源を入れると自動的に受信機も起動します。受信機の 電源を単独で Off/On した場合は必ず 8-Series ミキ サーの電源を入れなおしてください。(SuperSlot 制御 に支障が発生します。)

スロットの電源をオフにする方法

節電のために SL-2 にマウントされた受信機の電源を 切りたい場合は、8-Series からスロット電源をオフに できます。

Menu > SuperSlot > Option > Receiver Slot Power

SL-2 RECEIVER SLOT POWER	
1. Slot 1 Receiver Power	On
2. Slot 2 Receiver Power	On

<<ソフトウェア・バグ>>

受信機の周波数変更

チャンネル周波数を設定するときは、GR と CH で 周波数を変更してください。 周波数を直接変更する とロックが解除されて、プリセットデータが上書きさ れます。

プリセットデータを元に戻すには、MCR54 を PC に 接続してデータを復元する必要があります。詳細は、 販売代理店までお問い合わせください。



プリセットデータが上書きされます。

<u>MCR54 のチャンネルをオフにする方法</u>

節電のために Wisycom MCR54 (4ch Receiver)の Ch1,2,3,4 を個別に電源オフにすることができます。

Menu > Setup > Active RXs

Active Receivers		
RX1 💟	RX2 💟	
RX3 🔽	RX4 💟	

MCR54 本体のボタン操作から Active Receivers 画面 のチェックマークを外すと節電できます。(8-Series を 再起動してもこの設定は保持されます。)

SL-2 を有効にする

1) 8-Series の拡張ポートに接続されている SL-2 の機 能を利用するためには、Menu > System > Expansion Port で On に設定してください。



ワイヤレスマイク・レシーバーの使用

SL-2のスロット・レシーバーを利用するには、レシー バーの電源を有効にする必要があります。

1) Menu > SuperSlot からレシーバーオーバービュー 画面に入ります。

	MAIN MENU
8. Noise Suppre	ession
9. Meters	
10. Timecode/S	Sync
11. Record/Pla	v
12. Files	
13. Slate/Coms	/Returns
14. SuperSlot	
15. System	
16. Controllers	
17. Quick Setu	P
SL-2 R	ECEIVER OVERVIEW
A1 806.125	Υ
A2 806.125	ΨŌ
A3 806.125	ΨŌ
A4 806.125	Ϋ́
в1 806.150	ΨŌ
004405	
B2 806.125	⊢ ¥
B2 806.125 B3 806.125	Ψ Ψ Ū
B2 806.125 B3 806.125 B4 806.125	Υ Υ Δ Υ

2) SL-2 RECEIVER OVERVIEW 画面の右下にある、 Options を操作して SL-2 OPTIONS 画面にアクセス します。

SL-2 OPTIONS		
1. Receiver Slot Power		
2. DC Outputs		
3. Antenna A Power (Bias)	Off	
4. Antenna B Power (Bias)	Off	
5. Antenna Attenuation	0 dB	
6. Antenna Filter	Wideband	
7. Antenna LEDs	Off	
8. Remote Antenna Control	Off	
9. Remote Antenna Setup		
10. RF History Duration	30 s	

3) Receiver Slot Power > Slot1 または Slot 2 に入り、 電源オプションを On にしてください。

SL-2 RECEIVER SLOT POWER	
1. Slot 1 Receiver Power	On
2. Slot 2 Receiver Power	On

外部アンテナの利用

 SL-2 に接続された外部アンテナのブースター機能 を利用する場合は、アンテナ・パワーをそれぞれ On にしてください。

SL-2 OPTION	IS
1. Receiver Slot Power	
2. DC Outputs	
3. Antenna A Power (Bias)	Off
4. Antenna B Power (Bias)	On (12V)
5. Antenna Attenuation	0 dB
6. Antenna Filter	Wideband
7. Antenna LEDs	Off
8. Remote Antenna Control	Off
9. Remote Antenna Setup	
10. RF History Duration	30 s
SL-2 OPTION	IS
1 Receiver Slot Power	

1. Receiver Slot Power	
2. DC Outputs	
3. Antenna A Power (Bias)	Off
4. Antenna B Power (Bias)	Off
5. Antenna Attenuation	0 dB
6. Antenna Filter	-6 dB
7. Antenna LEDs	-12 dB
8. Remote Antenna Control	-18 dB
9. Remote Antenna Setup	
10. RF History Duration	30 s

(つづき)

2) トランスミッターが近すぎる場合は、アッテネー ションで適切な受信感度に設定してください。 (0dB がデフォルトで、-6,-12,-18dB と選択可)



3) アンテナフィルターを設定すると、安定した受信 が可能となります。B 帯を使用する場合は、770-960 MHz にしてください。

ミキサーインプットにオーディオを設定

重要】

図 A

8-Series のチャンネルインプットにレシーバーのオー ディオをアサインしないと、RX 画面のレシーバー情 報にオーディオレベルは表示されません。

1) 任意のチャンネルの PFL を操作して、入力設定画 面にアクセスします。



RX Setup

2) チャンネルソース画面で、SL-2 の入力ポートをア サインします。

3) 図 A の RX Setup を操作して、アサインされたレ シーバーの周波数を編集できます。



【重要】

B帯ワイヤレスの場合、ここで直接周波数を編集しないでください。MCR54 にプリセットされている B帯 リストが強制的に書き換わります。(バグです)

B帯レシーバーの周波数調整は、GR と CH の組み合わせで必ず設定してください。

レシーバーへのショートカット・アクセス

Menu+HP: Menu ボタンを押しながら HP エンコー ダを押すと、SL-2 RECEIVER OVERVIEW 画面にす ばやくアクセスできます。(Menu > SuperSlot からも アクセスできます。)

図 C	SL-2	SL-2 RECEIVER OVERVIEW			
ЫC	A1 806.125	Ψ.	i i i i i i i i i i i i i i i i i i i		
	A2 806.375	Ý	Ō		
	A3 807.125	Ý	Ō		
	A4 807.750	Ý	Ō		
	B1		_		
	В2		Ē		
	В3				
	В4		Ē		
	Ŷ	RF Scan	Options		

この画面で、レシーバーの電波受信状況、送信機のバ ッテリー残量を確認することができます。

SELECT エンコーダで青いカーソルを移動して、任意 のレシーバーチャンネルの情報画面(図 B)にアクセ スできます。

RF Group Scan で周波数を設定

図Bの画面左下にある RF Group Scan を操作すると、 グループスキャンを開始します。スキャンする前にす べての送信機出力をオフにしてください。



すでにスキャンしたことがあると、次のメッセージが 出て、前回のスキャンデータを利用するか、再度スキ ャンするかを質問されます。

		SELECT GROUP FRE	QUENCY
	Select	Channel from Group (01 for A1:
		Press OK to use ex RF scan data or s to rescan.	xisting Scan In
		SELECT GROUP ERE	OUFNCY
図 D	Select	Channel from Group (01 for A1:
	Ch 6:	RF Level: -9 dBµV	809.500 MHz
	Ch 3:	RF Level: -8 dBµV	807.125 MHz
	Ch 4:	RF Level: -8 dBµV	807.750 MHz
	Ch 5:	RF Level: -8 dBµV	809.000 MHz
	Ch 2:	RF Level: -7 dBµV	806.375 MHz
	Ch 1:	RF Level: 42 dBµV	806.125 MHz

このリストは、現在 A1 に設定されている GR から電 波状況の良い周波数が上からリストされています。

図 D では、GR:01, CH:06 に相当する 809.500 MHz にカーソルが当たっており、HP エンコーダを押すと、 現在操作中の A1 レシーバーに 809.500 をアサインす ることができます。



カーソルの周波数をアサインするかどうか、質問の画 面が表示されます。OK でアサインされます。

A1: Wi	sycom M	CR54			
-50	-35		-20	-12	0
ΥA	807.6	25	Link	Margin	Tx
GR	: 05	B-5		CH: [()1
RF Gro	up Scan			Ор	tions

SL-2のA1スロットをGR:05, CH:01 をアサインして から RF Group Scan を実行すればB帯のGP:05 にプ リセットされた周波数の中から電波状況の良いもの がリストの一番上に表示されます。

	SELECT GROUP FREQUENCY			
elec	elect Channel from Group 05 for A1:			
Ch 2	RF Level: -8 dBµV	808.125 MHz		
Ch 3	RF Level: -8 dBµV	808.375 MHz		
Ch 4	RF Level: -8 dBµV	808.750 MHz		
Ch 5	RF Level: -8 dBµV	809.625 MHz		
Ch 1	RF Level: -7 dBµV	807.625 MHz		

注) B 帯の GR:05 のプリセットは5つの CH しかないので、リストには5つしか表示されません。

レシーバーの設定

図 A の画面右下にある Options を操作すると、現在設 定中のレシーバーチャンネルに関する詳細な設定を 行うことができます。



MCR54 の場合、1 台の受信機で4 チャンネル受信で きるので、A1, A2, A3, A4 ごとに設定があります。

A1: Wisycom MCR54		
1. Edit Receiver Name		
2. Sauelch Mode	Normal	
3. Channel Modulation	Narrow	
4. Compander	JNR	
5. Display Off Timeout	30 s	
6. Calibration Tone	Off	
7. Calibration Tone Level	-20 dB	
8. Analog Audio Select	RX1+RX2	
9. RF History Levels	RSSI	
10. Show Receiver Info		

上図で重要な設定は 2.3.4. です。

(2. Squelch Mode)

スケルチモードは受信機のみの設定で、'Normal' 推奨 です。'Long Range'にすると Normal より遠くまで届 きますがスケルチレベルが低く設定されるため雑音 混入リスクが増えます。(Long Range ではトーンスケ ルチ機能もオフになるため、音声ミュートのレスポン スが早くなって不快な雑音が入りやすくなります。)

【3. Channel Modulation】(占有带域幅)

B帯では'Narrow'で運用してください。('Wide'はホワ イトスペース帯用なので B 帯で設定すると隣接チャ ンネルの干渉を受けやすくなりメリットはありませ ん。)

[4. Compander]

コンパンダーは送受信機の両方で同じ設定('JNR-Wisy'推奨) にしてください。

受信機を INR に設定したら、送信機の Noise R 設定 も、"JNR-Wisy" であることを確認してください。

RUDIO Noise R: <u>UNR-Wisy</u> Limiter: Off				
A1: Wisycom M	JNR			
	JNC			
. Edit Receiver Name	ENR Wisy			
2. Squelch Mode	ENC Wisy			
3. Channel Modulation	SEN			
. Compander	SU			
5. Display Off Timeout	SK			
Calibration Tone	SD			

(備考)

Compandor の設定オプションには、SEN (センハイザ ー) や SR (シュアーUHF-R シリーズ)、EVO (セン ハイザーHDX) などがありますが、他社製品のワイヤ レス信号の受信に関して動作保証はありませんので 御注意ください。

SR

AL

EVO

OVL

トランスミッターの設定(RF Power)

7. Calibration Tone Level

8. Analog Audio Select

9. Show Receiver Info



送信機の RF Power 設定には、"10" mW 以外に "L10" があります。このLは、Linear を意味し、周波数を等 間隔配置して運用する場合に設定します。 "10"mW 設定の送信機に比べて、"L10"設定にすると、バッテリ ー駆動時間が短くなります。

トランスミッターの設定(PTT)

PTT 推奨設定は'Disable' (プッシュトゥトーク無効) です。'No Data' にするとトーンスケルチ信号が無効 になりトランスミッターのバッテリ残量情報が送ら れなくなります。

Link Margin について

LINK QUALITY とも呼ばれ、RF 信号の S/N 比を基 に送受信機間の接続状態の品質を示しています。



MCR54 のアナログ出力

MCR のフロントパネルには TA-5 オーディオ出力が あります。SL-2 で、Analog Audio Select を"RX1+RX2" に設定すると、ラインレベルのアナログ信号でトラン スミッターからの音声を利用できます。



SL-2 の背面 TA-3 入力コネクタ

SL-2 は、スロット・レシーバー以外からの AES3 デジ タルオーディオ信号を入力する TA-3 コネクタがあり ます。

CHANNEL 1 SOURCE				
Mic/Lin	e	12345678		
SL-2	Slots AES	A1 A2 A3 A4 B1 B2 B3 B4 1 2 3 4		
Dante		1		
AES3/A	ES42	1 2 USB 1 2		
Return	s	A1 A2 B1 B2		
		RX Setup		

ミキサーのインプット設定で、AES の[1] をアサイン すると、SL-2 背面にある AES Inputs 1,2 表記の TA-3 に入力された信号を利用できます。 SL-2 の利用できるオーディオ信号数は最大8です。 例えば、SL-2 で2台のスロット・レシーバーMCR54 を介して8基のトランスミッターを利用中に、TA-3 入力信号をアサインしようとすると、レシーバーのオ ーディオが2つ解除される旨のメッセージが表示さ れます。

Miz	
si	?
	Selecting SL-2 AES 1 or 2 will unroute
Di	SL-2 A3 and A4 from other channels.
AI	Conunde:
R۴	Ok Cancel

故障と思う前に…

レシーバーの音がミキサーに入らない。

- 8-Seriesの電源が入った状態で、MCR54レシーバー電源を切らないでください。SL-2とのコミュニケーション障害により動作不良を起こします。
- レシーバーでスケルチ機能が働いているかもしれ ません。MCR54のディスプレイ横の LED の色を 確認してください。青(ANT-A)か緑(ANT-B)は正 常ですが、赤の場合スケルチが働いています。

ONO	101:01	201:02
1 🔵	Long Rng	Normal
3 🔿	3 01:03 807.125 Normal	4 02:06 808.875 Normal

8-Series 画面の Squelch Mode を、Long Range に 設定して音が来る場合は、受信電波状況の改善が 必要です。

 MCR54本体の 3.5mm ヘッドフォンプラグを使っ て音を確認してみてください。Headphone メニュ ーから RX1,2,3,4 のいずれかをソロモニターでき ます。

